



函館からトラスト



Nov.2011 No.29

公益信託 函館色彩まちづくり基金 平成22年度助成活動が決定

第18回は5件の助成が決定

平成23年2月19日(土)午後1時から3時までの間、函館市地域交流まちづくりセンターフリースペースにおいて、公益信託 函館色彩まちづくり基金 平成21年度(第17回)助成活動の3団体の最終報告会が開催されました。プロジェクターを使って、スクリーンに楽しい活動の様子などが映し出され、貴重な成果が報告されました。

※運営委員会で話し合われた各助成団体に対する詳細コメントはホームページ (<http://www.h-nisshou.com/kara/>) をご覧ください。

平成21年度(第17回)助成活動の3団体

- ①ペンキ塗りボランティア隊・・・谷地頭商店街の町並み色彩改善 Part5 一町屋ペンキ塗りワークショップ・XVII(助成金額58.3万円)
- ②NPO法人はこだて街なかプロジェクト・・・空地に花を咲かせよう(助成金額33万円)
- ③はこだて外国人居留地研究会・・・函館の町並みに生きる箱館開港(助成金額34.8万円)

その後、平成22年度(第18回)の助成活動申込み団体のアピールが行われました。同会場の研修室において運営委員会が開催され、5件の助成申し込みに対し、助成が決定しました。

平成22年度(第18回)助成活動の5団体

| | 申請者 | 助成希望テーマ | 希望金額 | 助成金額 |
|---|--------------------------------|--|------------|------------|
| 1 | ペンキ塗りボランティア隊 | 谷地頭商店街の町並み色彩改善 Part6 一町屋ペンキ塗りワークショップ・XVIII | 574,000円 | 574,000円 |
| 2 | はこだて外国人居留地研究会 | 「はこだてと外国人居留地 キリスト教と外国文化編」・「はこだて外国人居留地 北方世界と函館編」の2冊のリーフレットの発行と成果の市民還元活動(散策会・研究会・講演会)の実施 | 490,000円 | 300,000円 |
| 3 | NPO法人はこだて街なかプロジェクト | 空地(からち)に花を咲かせよう | 330,000円 | 250,000円 |
| 4 | 函館大門地区桜を植える会 | 函館西部地区・大門地区に、ハル(春・張る)を呼ぶ、桜で憩う町並み作り | 500,000円 | 100,000円 |
| 5 | 二十間坂友の会 | 二十間坂の景観保全と改善に関する住民の活動植樹等で緑豊かな坂道を | 525,000円 | 276,000円 |
| 6 | 函館移住者写真の会 「西部地区の歴史と今を出版する会」 | 「西部地区を中心とする函館の町並みとその背後に流れる歴史」を紹介する本の出版 | 1,300,000円 | 0円 |
| 計 | | | 3,719,000円 | 1,500,000円 |

応募団体への総評



運営委員長
木村 健一

(公立はこだて未来大学教授)

当基金の助成可能期間も残すところ最長でも3カ年となった。ペンキ塗り替えボランティア活動を軸に20年にわたる助成を通じて明らかになってきたことは、色彩によるまちづくりの継承者を育て、色彩による景観形成の社会実験を行うという二つの試みを兼ね備える市民活動が定着しつつある、ということである。都市は人工物で構築されている。市民は、この人工物をデザインして設置し、継続的に街を作っていく。デザインとは設計の事だが、この言葉には広い意味がある。単に色や形を考える事だけを意味するのではなく、他の人工物との関係や、人、モノ、資金、時間との複雑な要素を調整する行為全体を指している。だから、当基金が助成する多様な活動は、モノとして立ちあらわれる前の広範な人為の上になりたっているのだという、強い印象がある。活動は内包する

内容が広範であるから、時には価値観の違うモノとの強い衝突を生じる。しかし、互いに同じ西部地区に根差し、美しい人工物による街並みを希求するならば、時とともに良い答えを生み出すのではないかと期待できるのである。都市の景観は、一つの法人や個人が形作れるほど単純でも簡単でもない。広く広がる価値観の海の中の多様な波の衝突や共振で少しずつ形づくられてきたものである。今年度の助成対象には、凧のようにも見える粛々さが目立つのかもしれない。しかし、いずれも、西部地区の強固なコミュニティの中から提案が生じたものばかりである。つまり強い力を持っている。小さな波立ちがこうした活動によって、美しい街並みの「波」に変じていくきっかけにならん事を期待している。

ペンキ塗りボランティア隊

谷地頭町商店街の町並み色彩改善Part5 - 町家ペンキ塗りワークショップ・XVII -

代表 中村 歩

活動の目的

「ペンキ塗替えでまちが変わる」。

この活動は、谷地頭町商店街の町並みを対象に、数年かけて連続する建物すべての外観にペンキを塗り替えることにより(持続性)、町並みの色彩、景観が改善されたことを誰の目にもあきらかにすること(顕在性)、またそのことをとおして、住民のわがまちへの思いが活性化することをねがい、物心両面でのまちの再生をめざすものである。

活動の内容

谷地頭町商店街の約20棟の建物をすべて塗り替えようとするもので、すでに2006年から開始して昨年までの4年間に10棟の建物の色をペンキで塗り替えた。

地元谷地頭町会との連携をはかり、背景の函館山の緑や紅葉に映えて、まとまりのある町並みをつくると同時に、各建物が個性を表現し、リズムをつくるように、外壁の基調色をアイボリー色に統一し、建物の一部を強調色として建物ごとに異なる色を使用する、という色彩計画の方針をたて、今回はその第5弾としておこなったものである。

塗り替え対象建物の選定、塗り替える色の検討・CGシミュレーション、CGシミュレーション画像にもとづく建物所有者への色彩の相談と決定、ペンキ塗り替えの準備—ハケ等の用具の購入、塗料の手配、足場の手配、ペンキ塗りボランティアの募集等—の段取りを経て、2010年7月24日(土)、25日(日)の2日間にわたり、延べ83人の参加者を得、「笹木洋品店」、「気ままなパン屋 窯蔵」、「担担麺 同楽舎」の3棟の建物のペンキ塗り替えを実施した。

いつものように、大勢の方々の協力を得てこの活動を実施することができました。以下に記して、感謝の意を表します(敬称略)。谷地頭町会、笹木洋品店、気ままなパン屋 窯蔵、担担麺同楽舎、生活協同購買の函館おみやげ立待岬物語、(株)小板建設、小倉工務店、(株)やすもと札幌店・出口、北海学園大学・岡本ゼミOB・OG、元・函館工業高等専門学校教授・葦澤憲吉、函館工業高校・対馬誠、元町倶楽部・山本真也、函館からトラスト事務局。



活動の成果

今回、「笹木洋品店」を塗り終えたことで、表参道の函館山に向かって右側の連続する5棟(「生活協同購買」、「笹木洋品店」、「鮎処江戸松」、「ママショップクリーニング」、「菊地精肉店」)の塗り替えが完了した。また、去年は商店街の入り口となる交差点の角地の「生活協同購買」の建物を塗り替え、新たに西部環状線・市電通り側へと活動を展開したが、これに連続する「気ままなパン屋 窯蔵」と「担担麺 同楽舎」をあわせて3棟の塗り替えを終えることができた(写真参照)。その結果、谷地頭町商店街全体として、町並みの色彩、景観が改善されたことを誰の目にもあきらかにすることがほぼ達成されつつあるといえる。なお、今回の活動は、HBC北海道放送のテレビ番組、平成22年度 道民カレッジ『ほっかいどう学』大学放送講座・第2回「北海道のまちづくりいろいろ～まちを愛する道民のすがた～」(講師：岡本浩一(北海学園大学准教授)、2010年10月9日(土)午前5時から5時30分)で紹介された。

今後の展望

次年度には、市電通りでこれまで塗り替えられた3棟と連続する数棟か、あるいは通りをはさんで向かい側の数棟が塗り替えられるならば、通りの町並みとして将来の商店街のイメージをより強く、鮮明に地元の人々に思い起こさせることができるものと思われる。



塗り替え前の町並み



明るく、個性的になった塗り替え後の町並み

NPO法人 はこだて街なかプロジェクト

空地(からち)に花を咲かせよう

理事長 山内 一男

活動の目的

函館西部地区7町の空地に花を咲かせるプロジェクトを続けて6年、新しい船見町の空地と昨年からの大町の空地に花を咲かせることが出来ました。空地はかつて西部地区の町並み形成を担う家が有り、地域活動に参加した人が住んでいたところです。

空地は西部地区の町並みと人々のコミュニケーションを希薄にしました。特に歴史的な街並みには似合いません。

私たち街なかプロジェクトは、住民と一緒に花植えのデザインを考え決定します。この取組みは、自分たちの町づくりのきっかけになると考えているから、花は街並みに短期間で結果を出してくれました。

町づくりの主役は、住民・自分たちであることを、この活動の実践を通して知って欲しいと思っています。

活動の内容

3月:新しい船見町の土地所有者に土地使用の最終了解をいただき、使用承諾書の契約を交わす。継続の大町の土地所有者にも借用の了承をもらう。

3月30日:空地に花を咲かせるプロジェクトが「北のまちづくり賞」を受賞。

4月:空地に花を咲かせるプロジェクトの告知及びボランティア募集チラシ作成、参加町会・関係町会住民に配布。ワークショップを船見町・大町・自主的に花を咲かせる弁天町住民と一緒に開催。花壇デザインを決定、花苗・球根を仮発注。

5月:花壇の最終デザイン・花苗のレイアウトを実施。最終株数を決定、花壇枠、植栽土、肥料を最終発注。除草剤散布を依頼。

5月29日:花壇を設置、植栽土搬入。花壇のデザインを分かりやすいように、糸を張って区分けをする。花を植えるだけにし準備完了。

5月30日:自主的に花を咲かせる弁天町を応援し、船見・大町で植栽作業を行う。3班に分かれたが、参加者の慣れと手際の良さに終了時間の心配が飛ぶ。弁天町会と大町町会・船見町会

の人々が、弁天町の空地で昼食会を開催。仕掛人は弁天町の人たちだが、プロジェクトの仲間も急遽食材を提供しミニまちづくり談議が開催される。大町から来年もとの依頼をされるが、町会の活動として取り組むようアドバイスを行った。

6月から10月: 雑草取り、水やり作業を手分けをして行う。大町花壇の隣の住民の方の水やりには本当に感謝でした。10月下旬大町の花株をお裾分けし、花と花壇撤去。整地し土地所有者に報告。

11月: 船見町にも花株をお裾分けし、花と花壇撤去。土地所有者に来年のお願いをして、プロジェクト終了。

活動の成果と今後の展望

空地に花を咲かせた弁天町の敷地に、2軒の住宅が建設中で今春完成するようだ。弁天町内に10数年ぶりの新築住宅が誕生とのこと。町再生の一步、私たちの本来の目的が達成されようとしている。しかし、まだ道半ばである。

来年度は西部地区7町の最後末広町でこのプロジェクトが終了する。来年も地域の人たちと一緒に花を咲かせ町づくりの話をし、一緒に自分たちの町の将来を考え、より良い街並み形成に頑張っていこうと思っている。



2010年の活動報告③

はこだて外国人居留地研究会 函館の町並みに生きる箱館開港

代表 岸 甫一

活動の目的

本会は、函館旧市街地(西部地区)の独自の異国情緒を今も生きている歴史遺産ととらえ、地元函館の目線で、かつての外国人居留地また居留外国人と住民との交流などについて知られざる事実を明らかにすることを目的としている。この目的達成のため、旧市街地の歴史遺産の魅力を掘り起こし、その研究にもとづく外国人居留地マップを作成し、市民が旧市街地の歴史について気軽に興味を持って学ぶ機会を提供したいと考えている。また外国人居留地マップを使った散策会により、市民とともに旧市街地の街並みの中に、開港や外国人居留地の歴史の再発見を試みる。

とくに2010年の前半は「函館中華会館創立100周年」の記念事業として函館華僑の歴史と文化について総合的に研究・調査を進める。

活動の内容

4月は研究会の活動について自由な意見交換をおこなった。5~8月は「外国人居留地マップ:中国編」作成に取り組んだ。作成作業と並行し、5月の総会で「函館中華会館創立100周年」の記念事業として小川正樹会員を中心とする中華会館特別見学会・散策会の協力などを決議し、「マップ:中国編」発行をこの記念事業の一環と位置づけた。

マップ作成と並行して、市民向けに6月菊池勇夫氏の講演会「幕末の箱館と盛岡藩(南部藩)」、7月井上勝生氏の研究報告会「日本開国史を考え直す」を開催し、箱館開港の歴史的背景を市民と共に探る機会を設けた。

「マップ:中国編」は清水憲朔・小川両会員を責任者として6回の編集会議の検討を経て、9月1日に発行した。このマップには函館華僑総会理事の任道治氏より「北海道中華学校の思い出」を寄稿して頂き、中華会館特別見学会の当日、中華会館で配布した。これらの活動を通して函館中華会館・函館華僑総会と研究会との交流が大いに前進した。

9月11日、中華会館特別見学会は小川会員と任氏の説明に約90名の市民が耳を傾け、中華山荘(中国人墓地)も特別に内部も含めて見学させて頂いた。散策会では、明治20年代の清国領事館跡から大町居留地周辺の中国人居留地を巡った。翌12日は、前日の見学会・散策会を踏まえて記念講演会・研究報告・総合討論会が実行委員会により開催された。長崎・神戸の華僑が伝えてきた文化財と函館華僑の文化財の特徴が紹介され、

デジタル画像での文化財保存も話題となり、函館中華会館の建築物や調度品を函館市民の貴重な文化遺産として後世に伝えていく機会となった。

10月~2月は「外国人居留地マップ:フランス編」作成に取り組んだ。マップ作成と並行して、市民向けに10月吉村富士夫氏の研究報告会「開港後の歴史的環境と建築探訪」を開催し、とくに旧市街地の大火と家屋の不燃化・道路拡幅の関係について学んだ。

「マップ:フランス編」は岸 甫一会員を責任者として編集し、7回の編集会議の検討を経て、2月19日に発行した。マップ作成にあたり、写真提供やフランス語翻訳などで函館日仏協会のご協力を頂いたことは、今後の交流につながった。

活動の成果

2010年の「はこだて外国人居留地マップ」は、「中国編」と「フランス編」の2編とも昨年に続き、複数の会員が執筆し、各々6~7回の編集会議で知恵を集めて作成できた。リーフレットの編集会自体が、学び合う研究会として定着した。これらのリーフレットは、引き続き市内・近郊の小中高の学校、大学、全国の関連図書館、関連学術研究機関に寄贈し、市民にも「まちづくりセンター」で無料配布した。リーフレット発行や「函館中華会館創立100周年」記念事業など当会の活動は、必ずマスコミでも紹介され、歴史好きな市民の当会への認知はすっかり定着した。

また、「中国編」作成の過程で函館中華会館・函館華僑総会との交流ができ、「フランス編」作成でも函館日仏協会との交流のきっかけができたのは、研究会の地域活動に厚みを増したと思われる。
(次ページへ続く)



今後の展望

2011年度は、これまでの研究成果の一応のまとめとして函館と欧米諸国に共通したリーフレット・テーマを設定する。前半は「キリスト教と外国文化編」(仮称)として、キリスト教を中心とする欧米文化と函館の交流(受容・対立)を、後半は「北方世界と函館編」(仮称)として、「北方世界」(千島・サハリン・沿海州・カムチャツカなど)における函館の位置づけを明らかにし、現在に残る大正・昭和初期の歴史的な街並み誕生を明らかにする。

これまで6回のリーフレットの成果を総合化し、新しい知見を加えながら、さらに、審査で出された「専門的・学術的に過ぎるのではないか」という批判に耐えうる、市民レベルでの活動をいかに工夫するかも当研究会に問われている課題である。



函館新聞にも取り上げられました。(平成23年2月22日)

第19回(平成23年度)助成活動募集のお知らせ

**みんなで汗を流せる
まちづくり活動をしませんか?**

平成25年の第20回(平成24年度)助成を持って終了の予定です。
いままでの皆様の研究・活動の成果を踏まえて函館の町に元気な風を吹き込んでみませんか?

■募集内容

函館のまちづくりに関わる市民レベルの様々な活動や企画の実践。そのために必要とされる研究。最終報告会への参加等による交通費は支給されませんので、その旨あらかじめご了解ください。

1. 建物の色彩や意匠の改善に寄与する活動
2. 町並みの改善・保全に寄与する活動
3. 知的財産の発掘と紹介に寄与する活動

但し、活動の成果に顕在性(衆目に触れる)と持続性(数年間)が見込まれる実践的活動であることを重視します。

■応募期間

平成23年11月～平成23年12月末日

■審査方法

当基金の運営委員会により審査・選考を行い、住友信託銀行が決定します。今回は**西部地区を重点整備エリアと位置付け、ここでの活動を優先します**ので、あらかじめご理解の上ご応募ください。

尚、応募された方には運営委員会の直前に、説明・アピールの機会が設けられます。

■選考結果の発表

応募者全員に個別に通知します。
ニュースレター「から」30号でも発表します。

■助成金額

原則として、1件当たり10万円～100万円まで。

■運営委員

- ◎木村 健一(公立はこだて未来大学 教授) ※運営委員長
- ◎足達 健夫(専修大学北海道短期大学 准教授)
- ◎小原 雅夫(元町画廊 経営、元 函館中部高等学校教諭)
- ◎小山 一彦(小山設計所 経営)
- ◎森下 満(北海道大学大学院工学研究院 助教)
- ◎荒井 俊明(函館市都市建設部長)

■申込書提出先

住友信託銀行 リテール企画推進部 公益信託チーム
〒100-6611 東京都千代田区丸の内1-9-2
(グラントウキョウサウスタワー)
TEL 03-3286-8218 FAX 03-3286-8792

■活動報告

助成を受けた活動は平成25年2月の報告会にて発表をお願いします。

また、活動成果はニュースレター「から」にも掲載しますので、事務局あてに報告書と写真等の資料を提出してください。

尚、会計報告(助成金使用報告書)は平成25年2月までに住友信託銀行あてに提出してください。

■応募用紙請求先

函館からトラスト事務局
〒040-0001 函館市五稜郭町19-15
TEL 0138-52-8411 FAX 0138-52-8170
※下記ホームページからもダウンロードできます。

編集夜話

「まちづくり」の意味するところは広い。当基金の助成によるまちづくり活動は、既に存在している函館という「まち」の中での課題に対して、住民が積極的に関与していくものがほとんどである。

しかし、3/11の地震、津波、その後の放射能汚染は福島県をはじめ多くの地域に壊滅的な打撃を与え、「まち」そのものの意味を問いたくすこととなった。まちづくり活動の対象となるべき町自体の存在が危ぶまれ、厳しい現実を強いられている。混乱の中から立ち上がり、力を合わせて新しい希望の町が生まれることを祈りたい。

再生可能なエネルギーの大転換が進んで、縦横無尽に張り巡らされた電線から解放される日が待ち遠しい昨今である。

2011年11月1日 河内 昌子

から第29号

発行/函館からトラスト事務局
発行年月日/2011年11月1日 編集/河内昌子
〒040-0001 函館市五稜郭町19-15
Tel/0138-52-8411(日昇商事内)

からトラスト公式ホームページ

<http://www.h-nisshou.com/kara/>